ちばだいプレス

千葉大学広報誌

CHIBA UNIVERSITY

特集 千葉大学OBOGインタビュー

特集 第52回千葉大祭開催レポート

vol.30

2014 DECEMBER

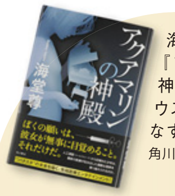
医師として作家として精力的に活躍する海堂尊先生。学内で行われたトークイベント&サイン会では学生たちと機知に富んだ質疑応答を展開。鋭いメッセージを軽妙洒脱に語る海堂先生にお話を伺いました。

大学時代は意識的にだらだら過ごす。それが後々自分の財産になります

独立行政法人放射線医学総合研究所・
重粒子医科学センター
Ai情報研究推進室室長　作家

海堂 尊さん

海堂 尊（かいどう・たける）
1961年生まれ。千葉大学医学部卒。医学博士。外科医、病理医を経て現在は独立行政法人放射線医学総合研究所・重粒子医科学センターAi情報研究推進室室長。第4回『このミステリーがすごい！』大賞受賞作『チーム・バチスタの栄光』（宝島社）で2006年作家デビュー。『ジェネラル・ルージュの凱旋』など数々のヒット作を生み出す。



海堂先生の新刊『アクアマリンの神殿』は、『モルフェウスの領域』と対をなす青春学園物語
角川書店刊

最も好きな作品は？

トークイベント＆サイン会 アンケート結果

1位 『チーム・バチスタの栄光』（14人）
2位 『ジェネラル・ルージュの凱旋』（9人）
3位 『医学のたまご』（8人）

いきあたりばったりが作家・海堂尊を生んだ!?

――初めに、なぜ医師を目指したのか教えてください。

海堂　すべていきあたりばったりの結果です。高校のときに医学部を目指したのも軽い興味からです。大学に入ってからも医師を目指すというよりも剣道に熱中していましたね（笑）。

そんな学生時代でしたが剣道部の先輩たちから「お前は外科医になるしかない」と言われ、他人からみた自分の適性を信じ外科医になりました。外科医は面白かったのですが、少し疲れてしまって大学院に入って博士号を取る道を選びました。2年ほど病理を勉強しているうちに、病理が面白くなってしまい、そのまま病理医に転向しました。

――医師として活躍していながら、小説を書こうと思ったのはなぜですか？

海堂　『ファーブル昆虫記』や『シャーロック・ホームズ』などが好きで、小学校6年生のときに「自分でも物語が書ければいいな」と思ったのがきっかけです。それから、執筆に挑戦してはやめてを繰り返してきました。目標は作家になることではなく1冊の物語を書くことだったので、そのときは書けなくても挫折とは思わず「今はまだ書けないだけ」という感覚でしたね。その後44歳のときにぱっと物語が書きあがりました。それがデビュー作となった『チーム・バチスタの栄光』です。

――医師と作家、現在の仕事のスタイルは？

海堂　医療は仕事だと思っています。作家のほうは正直遊びだと思って今までやってきていたのですが、今は比重が変わって作家が仕事になっています。

Ai情報研究推進室では、医療というよりもAiの普及活動、社会導入のための講演会や広報活動をしています。

千葉大学は、もっと我を強くさまざまな功績をアピールすべき

――千葉大学の良い点は何だと思いますか？

海堂　独創力があることです。自分がやりたいことを突き詰めて新しいものをつくることが、ほわんとできてしまうゆるやかな大学です。弱点は、我が弱いところ。たとえば医学部では世界的にも素晴らしい発見をいくつもしていますが、千葉大学はアピールしようとしない内弁慶なところがあります。これは非常に残念なことです。

ですが広い敷地と充実した施設、東京の中心からちょっと離れている環境、自由な発想を伸ばすこの地の利を生かして、自分の分野で、優れたもの、美しいものをつくってみてください。それはきっと必ず千葉大学オリジナルとして世の中に広がっていく可能性があります。

一番駄目なのは無意識にぼんやり過ごすこと

――最後に、学生へのメッセージをお願いします。

海堂　大学生の皆さんは今、実は一番いい季節を過ごしています。恵まれた状況の中で自由な時間を自由に過ごせる。よく「だらだら過ごしちゃいけない」と言われますが、私は無駄なことに費やしてもいいと思います。ただし、意図的にだらだら過ごしているんだと意識してください。一番駄目なのは無意識にぼんやり過ごすことです。

私は無意識に学生時代をだらだらと過ごしてしまいました。それを後悔したことはありませんが、振り返ると、その時間は最高に幸せな時間だったと気づきました。だからこそ、意識して時間を使ってほしい。

だらだら過ごすことができるのは大学生くらいです。その豊かな時間を意識しないのはもったいないことです。明確に意識して無駄な時間を過ごしてください。それが後々の自分の財産になります。

試験や就職対策などで、自由な時間はどんどん削られていきます。だからこそ自分の好きなことを自由にやれる時間を楽しんでできるだけ潤沢に味わってもらいたいなと思います。

千葉大学内で行われたトークイベント&サイン会。在学生からのたくさんの質問に的確に答えていく。

園芸学部からアナウンサーの道へ。異色の経歴を持つ山田香菜子さん。新人アナウンサー時代の苦労から、伝えることへのこだわり、そして、千葉大学在学時代の思い出までを伺いました。

視聴者の心に届く、確かな言葉で情報を発信していきたい

テレビ埼玉 アナウンサー（フリー）

山田 香菜子さん

山田 香菜子（やまだ・かなこ）
1982年生まれ。千葉大学園芸学部卒。2005年に山口朝日放送入社、アナウンサーとしてニュースや情報番組などに出演。同局を2011年に退社後、フリーランスに。2012年4月からテレビ埼玉の平日・夕方に放送されている情報番組「ごごたま」の司会を務める。幅広い趣味を持つが、最近はボイストレーニングにハマっている。

子どもの頃から好きなテレビの世界へ

――園芸学部を志望した理由と、なぜアナウンサーになったのかを教えてください。

山田　私は福岡出身で身近に自然を感じながら育ちました。そのせいか植物や環境学に興味があり、初めは農学部を目指していました。そんなとき、親しい友だちの千葉大学薬学部への推薦が決まり、千葉大学ってどんなところだろうって調べてみたら、園芸学部があって気象や生物、造園についても学べることを知り、魅力を感じて決めました。

アナウンサーを目指そうと思ったのは、大学3年生のときのこと。就職活動をするにあたり、自分が何になりたいのかを改めて考えました。子どもの頃、教育番組やアニメなどテレビが大好きだったことを思い出し、ちょっとのぞいてみようかなと軽い気持ちでアナウンサー養成学校に通いました。そこで、日本語の表現の面白さに気づいたのが理由です。

情報番組「ごごたま」の司会を担当

――新人アナウンサー時代のエピソードを教えてください。

山田　最初に、山口朝日放送に入社したのですが、地方局のアナウンサーは、取材のアポイントメントから取材、原稿作成、カメラ撮影、映像編集、テロップ入れまで何でもやるんですね。外から見たら華やかで最先端なイメージですが、中に入ってみると地道でアナログな仕事でしたね（笑）。とにかく覚えることが多くて大変でした。

――現在はテレビ埼玉で活躍されていますが、どのような番組に出演されていますか？

山田　平成24年4月から情報番組「ごごたま」の司会をしているほか、ニュースも担当しています。「ごごたま」は月曜日から金曜日までの夕方、毎日違うパーソナリティを迎え、埼玉県内の生活情報を発信しています。

――情報番組とニュースで違いはありますか？

山田　情報番組でもニュースでも、情報を伝えることの難しさを実感しています。たとえば、「ここに机があります」と伝えるだけでも、その背景を知っていて伝えるのと、まったく知らないで伝えるのでは言葉の重みが違います。その違いを埋めるには、事前の準備を十分にすることだと考えています。私自身もただ伝えるだけでなく、視聴者の心に届くように情報を発信していきたいと考えています。

自身の興味、疑問を先生方にぶつけてください

――在学時代の思い出はありますか？

山田　園芸学部では、よくフィールドワークに行ったのを覚えています。松戸キャンパス内を歩いて絵を描いたり、柏の圃場で農作業を体験したり、千葉県外にも行きましたね。

――園芸学部で学んだことが、仕事で役に立ったことはありますか？

山田　異常気象による植物への影響について取材したことがあったのですが、専門家の方に園芸学部卒であることを伝えるとスムーズに進みました。学んだ知識もあって、難しい話でもなんとか理解できたのがうれしかったですね。

――最後に、千葉大生へメッセージをお願いします。

山田　千葉大学には、いろいろな専門知識を持った先生がたくさんいらっしゃいます。学生の皆さんは今だからこそ、いろいろな先生のお話を聞けるチャンスを持っています。社会に出ると、そういった先生にお話を聞こうとしても手続きが大変だったり、壁ができてしまいます。ぜひ、興味があること、疑問に感じたことを積極的に先生方にぶつけて知識を吸収してほしいと思います。

「言葉は凶器にもなるので細心の注意を払っています」と山田さん。ニュース番組では、声のトーンや表情にも気を配っている。

特集

第52回 千葉大祭 開催レポート

ステージでは、バンド演奏、お笑いライブ、ジャグリング、ダンスなどで盛り上がりました

ギターカフェの呼び込みで一曲披露♪

ヨッ、ホッ、ハッ――。この技をご覧あれ！

ダブルダッチで、跳ねる！跳ねる!!

ふわふわで、あま〜いパンケーキはいかが

イタリア産食材、薪窯焼きにこだわったピザを販売！

ゴミの分別、ご協力ありがとうございます

クラシック音楽も堪能しました

秋も深まる4日間に、千葉大祭　が盛大に開催されました。
今回は雨に降られた日もありましたが、千葉大祭の盛り上がりは負けません。
テント企画の100を　超える模擬店をはじめ、
ステージやストリートパフォーマンスでは　ライブ、ダンス、ジャグリングを熱演、
屋内では各種展示や　演劇、喫茶店など、
多種多様な企画で来場したお客様　に楽しんでいただきました。

10月30日（木）▼11月2日（日）

今回のテーマは
「一祭合彩」

「残さずすべて」を意味する四字熟語に、「様々な個性のある学生が一つの千葉大祭を作り上げる」という意味を重ねています。

部屋企画のバンド演奏で盛り上がる！

ちゃんと動くかな…。ロボット操縦体験

千葉の海の魚たちがいっぱい

未来の都市を模型で考える！

鉄道研究会では、千葉県の私鉄オリジナル菓子を販売

生物学科の展示には、いろいろな標本がずらり…

小さなお子さんも大きな筆を持って書道に挑戦

キレのあるダンスを披露！観客を魅了しました

徳久学長が千葉大祭を視察

開催初日となる10月30日に、徳久学長が千葉大祭を視察しました。実行委員長である石島秀哉さんの案内のもと、日頃の活動成果の発表からアイデアいっぱいの工夫を凝らした企画まで、西千葉キャンパス内を見学し多くの学生と交流しました。

千葉大学
大学院
医学研究院

免疫発生学研究室

―先端研究部門 高次機能治療学研究講座―

研究室訪問 8

中山教授の研究室では、大学院生だけでなく、ポスドクといわれる若手研究者やテクニカルアシスタントなども含め、30名以上が研究にいそしんでいる。

アレルギーだけでなく、がんや糖尿病といった難治性の病気とも深い関連がある人間の免疫システム。そのメカニズムを解明することで、新たな治療への道を開くための研究を行っている中山俊憲教授にお話を伺いました。

免疫研究を通して難治性の病気の新たな治療法を開発

―先生が取り組んでおられる研究について教えてください。

私の研究室では、免疫のメカニズムを解明して、新しい医療の可能性につなげていくという研究を行っています。免疫というのは、体外から入ってきた「自分ではないもの」を排除する仕組みですが、過剰反応があるとアレルギーを引き起こします。花粉症や食物アレルギーがわかりやすい例ですが、近年ではがんや糖尿病、リウマチなどの難治性の病気も、免疫が関係していることがわかってきています。免疫システムはあらゆるものに反応すると思われていましたが、私の研究室では、「EZH2」というタンパク質が、一定以下のものへの反応を抑えるということを解明することに成功しました。これは、アレルギー疾患や自己免疫疾患を抑える薬剤の開発にも役立つ可能性があり、大きな成果だと言えます。

また、「免疫記憶」も私の研究の核の一つです。免疫記憶とは、簡単に言えば体が過去にかかった病気を覚えていて抗体をつくるというもので、これが利用されているのがワクチンですが、この記憶を担う細胞が慢性的な炎症を起こして、病気を誘発することがあります。私の研究では、この炎症を起こす細胞をピンポイントに取り除くことで、難治性の病気が治るという説を提唱していて、今年はその説を論文として発表しました。

―なぜ免疫についての研究を志したのでしょうか。

私は岡山の田舎育ちで、もともと生き物に親しみがあったこともあり、同じ理系でも物理や数学よりも生物系を学びたいと考え、医学部へ進みました。

免疫学との出合いは、学生時代にある講演を聞いて、免疫の世界に魅了されたことがきっかけです。講演者の多田富雄先生は、当時、東京大学に研究室をお持ちだったのですが、私は医学部を卒業後、すぐに東京大学大学院に進み、多田先生に師事しました。免疫システムの研究は今でこそ成熟した分野になりつつありますが、私の学生時代にはまだまだ未知の学問でした。逆にいえば、これから新しいことがわかっていく分野、発展していく分野なので、おもしろそうだと感じたことも、免疫の研究を志した理由の一つです。

―千葉大学では、「未来医療教育研究機構」を立ち上げられたそうですが、これはどのような組織なのでしょうか。

千葉大学では、さまざまな医療現場で活躍できる次世代対応型医療人の育成と、亥鼻キャンパスの医療系3学部（医学・薬学・看護学）や附属病院といった総合力を生かした「治療学」拠点の創成に取り組んでいます。

平成25年度には、「亥鼻キャンパス高機能化構想」が文部科学省の国立大学改革強化推進事業に選定され、その実現を担う組織として設立されたのが未来医療教育研究機構です。私はこの機構の機構長を務めさせていただいていますが、千葉大学ならではの強みを生かして、これからの日本の超高齢社会を支えることができるような医療人材を送り出したいと考えています。

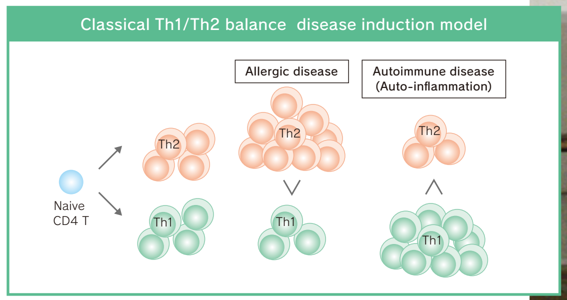
―最後に学生へのメッセージをお願いします。

学生の皆さんには、まず自分がやるべきことを、全力でやれるだけやってみることをお勧めします。自分の可能性がどこまであるのか、自分ではなかなかわからないものです。自分の限界を知ることで、自分が何に向いているか、どういう方向に進めばいいのかが見えてくるはずです。年齢を重ねると無理がきかなくなりますので、若いうちに思いきり走ってみてください。

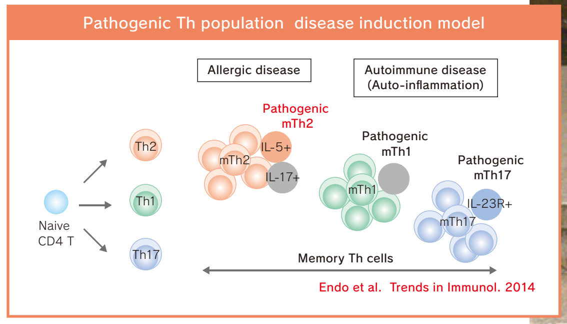
中山俊憲（なかやま・としのり）
千葉大学大学院医学研究院免疫発生学教授。山口大学医学部卒業、東京大学大学院医学系研究科修了。2001年に千葉大学に着任、2004年より現職。医学系グローバルCOEプログラム拠点リーダー、2014年7月より千葉大学副学長（未来医療）、未来医療教育研究機構 機構長。専門は免疫学。

◀ 千葉大学が推進する豊かな健康長寿社会と安全・安心な社会の実現を支える医療人の総合的育成の司令塔の役割を果たすのが未来医療教育研究機構。

これまでのドグマ！



新たな考え方の提唱



▲ 中山教授は、アレルギーや自己免疫疾患が免疫メカニズムの司令塔ともいえるヘルパーT細胞の数のバランスから起こるという従来の考え方（上の図）ではなく、記憶ヘルパーT細胞の集合の中に発病性のある細胞が現れることでアレルギーや自己免疫疾患が発症するという説（下の図）を提唱。この考え方が正しければ、発病原因となる細胞だけを除くことで症状の改善が期待できることから、今年2月に発表された論文の閲覧とダウンロードが公開後わずか2カ月余りで1000件を超えるなど、注目を集めている。

附属図書館本館L棟 リニューアルオープン

INFORMATION

附属図書館本館L棟は改修工事を終え、これをもって4年にわたる本館の改修工事はすべて完了し、10月1日には学長を交えたオープニングセレモニーが催されました。4つの棟からなる本館はそれぞれ「黙考する図書館」、「研究・発信する図書館」、「対話する図書館」、「知識が眠る図書館」といった異なるコンセプトで運用されており、様々な学びが実現できる空間となりました。

くす玉を開披する様子（左から竹内附属図書館長、学生代表の原田さん、徳久学長、猿渡理事）

文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」事業に採択されました

INFORMATION

千葉大学は、平成26年9月26日付で文部科学省の「スーパーグローバル大学等事業『スーパーグローバル大学創成支援』」のタイプB（グローバル化牽引型）に採択されました。この事業は、我が国の高等教育の国際競争力の向上及び大学改革により徹底した国際化を進める、世界レベルの教育研究を行うトップ大学や国際化を牽引するグローバル大学に対して、文部科学省が重点支援を行うものです。

記者会見の様子（左から中谷理事、徳久学長）

約500名の市民らが集い 「千葉大学サテライトキャンパス美浜」開校！ 〈コミュニティ再生・ケアセンター〉

EVENT

10月4日、「千葉大学サテライトキャンパス美浜」の開校式が開催されました。このキャンパスは、文部科学省の大学COC事業に採択された「クリエイティブ・コミュニティ創成拠点・千葉大学」における取組の一環として、廃校となった旧高浜第二小学校の一部を千葉市から借り受け、学生を対象とした地域再生教育や、地域を対象とした包括的研究、市民と連携したまちづくり活動などを進めていく拠点とするものです。当日は徳久剛史学長、熊谷俊人千葉市長、守安雅志UR都市機構本部長、東秋沙NPO法人ちば地域再生リサーチ事務局長らが参加し、集まった市民や関係者と共に、開校を祝いました。オープニングイベントでは、幅広い年齢層から約500人が来場し、キャンパス内の教室や体育館を会場に、防災ワークショップ、地域活動体験、WiCAN工房などの催しに参加して楽しい時間を過ごし、市長をはじめ来賓の方々も気軽に交流する姿が見られました。

「キッズヒップホップ誰でもダンサー」でダンスを楽しむ子どもたち

参加者と交流する熊谷千葉市長

柏の葉診療所が 漢方自由診療を開始

INFORMATION

10月15日、千葉大学柏の葉診療所は、国立大学法人としては全国初となる自由診療体制での漢方専門外来を開始しました。「環境・健康・食」をキーワードに学際的な教育研究に取り組む柏の葉キャンパスにおいて、「自然と健康」「医食同源」の考え方のもと、将来は本学の園芸学分野・薬学分野の専門家と連携しながら高品質な生薬の安定供給を目指した研究に取り組んでいきます。

柏の葉診療所、診療スタッフ等

日本公庫千葉県内 4支店と連携協定を締結

INFORMATION

10月2日、千葉大学と株式会社日本政策金融公庫は、活力のある経済社会の形成と学術・文化の振興を図ることを目的とし、包括的な連携協力に関する協定を締結しました。この締結により、千葉大学と企業のマッチング及び共同研究の促進、研究成果の事業化の促進、千葉大学発ベンチャーへの支援など、相互に協力可能な分野における共同事業を本格的に推進することになります。

左から徳久学長、日本政策金融公庫千葉支店の紺野支店長

QUIZ 薬学部前にある木造建造物は何か？

▶ 答えはページ下の「もっと知りたい千葉大学」へ

「マイボトル事業」 オープニングイベント開催

EVENT

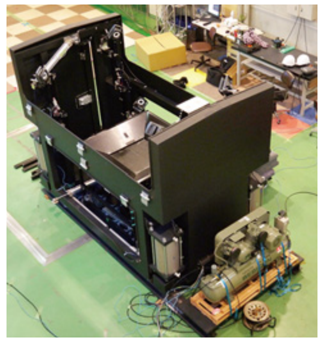
10月9日、NPO法人千葉大学環境ISO学生委員会は千葉大学生協と協力し、マイボトルを利用したごみ削減のための実証実験のオープニングイベントとしてマイボトルの販売を行いました。西千葉キャンパスの会場はイベント開始から学生を中心としたたくさんの人々で賑わい、800本用意されたマイボトルは完売しました。今後は購入者に対してアンケートを行うなどし、活動を展開します。

チーバくんとNPO法人千葉大学環境ISO学生委員会のメンバー

野波健蔵特別教授のマルチコプター、バッテリー交換ステーションを開発

INNOVATION

野波健蔵特別教授は、自律飛行型マルチコプターのバッテリー交換ステーションを開発しました。これまで稼働時間に制約があることが無人機実用化の大きな障壁となっていましたが、複数のバッテリーを順番に使うことで長時間の自律飛行が可能になり、今後災害現場の空撮や建屋内の立体地図の作成などでの活用が期待されています。


野波健蔵特別教授が開発した、マルチコプターのバッテリー交換ステーション

稲毛消防署長より 感謝状贈呈

AWARD

10月12日、千葉市稲毛区穴川1丁目の路上で発生した救急事故において、心肺停止の重篤な状況に陥った傷病者に対し、近隣住民1名と連携し適切な処置を行い、救命活動を積極的に行った功績を評価され、11月17日、千葉市稲毛消防署長より本学学生（ソフトテニス部部員）に感謝状が贈呈されました。

前列左から佐久間さん、宮崎さん
後列左から西山さん、千葉さん、渡邉理事

箱根駅伝予選会に 陸上競技部が出場

INFORMATION

10月18日、東京都立川市において開催された第91回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会に千葉大学の陸上競技部が出場しました。千葉大学陸上競技部は予選会に12年連続出場中です。今年の予選会は48校中36位と、箱根駅伝への出場権こそ逃したものの、昨年に引き続き健闘の走りを見せました。

千葉大学陸上競技部のメンバー

次世代の種～ SEEDSのためのテクノロジーとイノベーションを育てる

千葉大学SEEDS基金

ご支援・ご協力のお願い チャレンジを支え、人を育てる基金です。

千葉大学ＳＥＥＤＳ基金の主な使途は、学生生活環境の整備、教育研究環境の整備、学生への奨学金の支援、国際交流事業の推進などです。

学生、若手研究者がより良いキャンパスライフを送れるよう、ご支援・ご協力をお願いいたします。

渡航費助成を受け、米国での研究の傍ら各国研究者と交流を深める教員

ホームページから寄付の申し込みの手続きができます。

詳しくは http:// kikin-chiba-u.jp/

薬学部の学舎を 見守り続ける屋根飾り

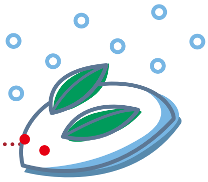
もっと知りたい千葉大学

薬学部は1890年に遡る歴史を持ちます。1918年に新築された「猪之鼻学舎」（当時は千葉医学専門学校薬学科）の上には屋根飾りがありました。薬学部は、1966年西千葉に移転しますが、旧校舎が解体された82年、屋根飾りは西千葉に運ばれ、85年に構内に展示されます。そして、歴史ある学舎のシンボルゆえ、2011年、亥鼻地区に戻った薬学部の新校舎前、実はかつてと同じ場所に再設置されたのです。（国際教育センター 見城悌治）

1935年の薬学部全景（上）と薬学部にある現在の屋根飾り（下）

vol.30

I N D E X



02 特集　千葉大学OBOGインタビュー
人気作家とテレビ埼玉アナウンサーが登場！

06 特集　第52回千葉大祭　開催レポート
西千葉キャンパスの盛り上がりを写真で紹介

08 研究室訪問
新しい医療の可能性を研究
－千葉大学大学院医学研究院先端研究部門高次機能治療学研究講座免疫発生学研究室－

10 TOPICS／もっと知りたい千葉大学

〔表紙〕千葉大祭開催中の西千葉キャンパス東通り

ちばだいプレス

編集・発行／千葉大学 企画総務部渉外企画課広報室　〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1番33号
TEL. 043-251-1111（代表）　http://www.chiba-u.ac.jp　E-mail : bag2018@office.chiba-u.jp